

工 業

1 学習指導と評価の改善・充実

～ キャリア教育を推進する工業科の学習指導等の工夫・改善～

キャリア教育を推進するにあたっては、児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえるとともに、学校の教育計画の全体を見通す中で、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した指導計画を作成することなどが必要である。平成18年度の手引では、3年間を見通した指導計画及び指導内容（例）や産業現場実習の評価計画・方法等について取り上げたが、本手引においては、進路講話の実施計画・内容等及び高等学校3年間のキャリア教育にかかわる評価の参考例を示し、活用方法や留意点などについて説明する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ キャリア教育の視点を踏まえた工業教育の取組～

(1) 3年間を見通した進路講話の実施計画・内容の作成

次に示すのは、キャリア発達にかかわる諸能力の育成の視点を取り入れた、3年間を見通した進路講話の実施計画・内容の例である。（事前・事後指導等については後述）

「3年間を見通した進路講話の実施計画・内容（例）」

育てたい諸能力(キャリア発達にかかわる諸能力): = 該当 = 特に該当

学年	目 標	講 師	内 容	育てたい諸能力			
				a	b	c	d
1	・自己理解の深化と自己受容	・ハローワーク職員、進路相談員等	職業の種類とアルバイト(フリーター)と正社員の違いについて 高校生の就職状況など				
		・企業経営者、起業家、保護者等	働くことの意義について 自分自身の経験など				
		・大学、専門学校等入学担当者	学習内容と進路先及び授業料など (VTR、HPの活用)				
		・3年生(各学科)	進路体験発表会				
		・民間企業、官公庁等の職員	工場見学				
2	・選択基準としての職業観・勤労観の確立	・ハローワーク職員、進路相談員等	企業が求める人材像 高校生の就職状況など				
		・卒業生	高校時代の進路決定について 勤務している会社の仕事内容など 会社内の人間関係について				
		・大学等の出前授業	専門性の高い授業、実験・実習など				
		・3年生(各学科)	進路体験発表会				
		・民間企業、官公庁等の職員	インターンシップ・産業現場実習				
3	・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加	・ハローワーク職員、進路相談員等	労働に関する法律や就業規則について 求人票の見方について				
		・熟練技術者、製造業の技術者等	ものづくり熟練技術の継承について 製造業でのものづくりについて				
		・企業の人事担当者	企業が求める人材について 就職するための準備や心構えなど				
		・民間企業、官公庁等の職員	工場見学				

保護者・ 教員	・保護者、地域との連携、協力	・ハローワーク職員、進路相談員等	保護者の進路への関わりについて 教職員向けキャリア教育セミナー
		・民間企業、官公庁等の職員	企業での人材育成について 工場見学
<p>育てたい諸能力（キャリア発達にかかわる諸能力）の領域説明</p> <p>a：「人間関係形成能力」・・・他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p> <p>b：「情報活用能力」・・・学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。</p> <p>c：「将来設計能力」・・・夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。</p> <p>d：「意思決定能力」・・・自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。</p>			

[留意点]

育てたい能力やねらいを明確にし、各学年における生徒の能力や適性、興味・関心など発達段階や進路希望に応じた計画・内容とする。

企業や高等教育機関の採用担当者、労働局などの関係行政機関、さらにはものづくり熟練技術者等の外部講師を積極的に招へいし、講演内容が多岐にわたるよう設定する。

外部講師に講話を依頼する際には、3年間を見通した進路講話の実施計画・内容を示すとともに、次に示す「進路講話依頼シート（例）」を用いるなどして、学校におけるキャリア教育の取組状況について理解を得ながら、依頼する講話の目的やねらいなどについて、共通理解を図る必要がある。

「進路講話依頼シート（例）」

講話種別	ものづくり熟練技術者による講話（3年）		
日時・場所	平成19年 月 日（金）13：30～15：00 多目的ホール		
講師氏名	株式会社 専務取締役（昭和45年 科卒業 第 期生）		
能力領域	講話のねらい	依頼：	本校におけるキャリア教育の学習活動等
a 人間関係形成能力	<ul style="list-style-type: none"> 自己の職業的な能力・適性を理解する。 職場での適切なコミュニケーションを図る必要性を理解する。 職場におけるリーダー・フォロアーシップの発揮やチームワークが必要な理由を理解する。 		産業現場実習・インターンシップ（2年）
b 情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> 職業生活の権利や義務、責任及び職業に就く手続きや方法などについて理解する。 職場に必要な職業観・勤労観を考えさせ、職業・勤労に対する理解や認識を深める。 産業や職業に関する情報を調査・収集・整理する。 		外部講師による進路ガイダンス（1～3年） 卒業生などによる講話・進路交流会（1～2年） 様々なメディアを活用した進路に関する調査・研究（1～3年）
c 将来設計能力	<ul style="list-style-type: none"> 職場での自分の役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 職業人としてどのような将来設計を描き、今取り組むべき学習や活動は何か考える。 生きがいがあり、自己を生かす生き方や進路を考える。 		産業現場実習・インターンシップ（2年） HR活動における進路学習（1～3年） キャリア・アドバイザーを活用したガイダンス（3年）
d 意思決定能力	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解させ、進路実現の可能性について考える。 		保護者と連携したキャリアガイダンス（1～3年） HR活動における進路学習（1～3年）
[講師からの要望事項等]		[備考]	
<ul style="list-style-type: none"> ・P.C、プロジェクターの使用の有無（有・無） ・講演にかかわる配布資料の有無（有・無） ・その他（ ） 			

「能力領域」は、育てたい諸能力（キャリア発達にかかわる諸能力）の領域を示している。
「依頼：」は、今回依頼したい講話の内容についてをつける。

(2) 進路講話の事前・事後の指導

進路講話が一過性の行事になってしまうことのないよう、事前指導において講話の意義について生徒にしっかり理解させるとともに、関連する内容についての調査・研究を行わせる。また、講話後には感想を発表する場を設定することや、自らの変容について気付かせるための自己評価を実施するなど、周到的準備と計画のもとに指導することが望まれる。ここでは、進路講話の事前・事後の指導の際に用いる「進路講話ワークシート(例)」を示し、活用方法等について説明する。

「進路講話ワークシート(例)」

3年 科 番 氏名

日時・場所	平成19年 月 日(金) 13:30~ 多目的ホール				
講師氏名	株式会社 専務取締役 (昭和45年 科卒業 第 期生)				
講演題等	ものづくりにおける熟練技術の継承について(ものづくりの難しさ・楽しさ...)				
講話のねらい	自己評価		講話の内容	メモ	
	事前	事後		質問してみたい内容	感想
・「進路講話事前オリエンテーション」			【講師の経歴等】		
・仕事内容や働き方について考えている	2	2	・勤務時間や給料、就労条件について	残業はどのくらいあるのか?	仕事は給料が高ければいいということではなく、やりがいのある仕事でないと長続きしないと思った。
・「人は何のために働くのか」働く目的や意義について考えている	4	5	・この職業に就いた理由について		
・勤労観・職業観について考えている	2	4	・この職業に就いて「良かった」と感じる魅力や社会的な意義、働きがいなどについて	やめたいと思ったことはないか、それはどんな時か?どのように克服したか?	苦勞してものをつくるからこそ、達成感や満足感などの喜びが得られるということが分かった。
・希望の職業に就くためにはどのような準備や資格、免許が必要か考えている	3	4	・ものづくりの難しさ・楽しさ...		
・職業を通じて社会に貢献する態度を理解している	2	2	・資格や免許が仕事にどのように役立っているか。また、働いてから習得した資格等について	資格に合格する秘訣は何か? 資格をとると給料が上がるのか?	資格を持っていると色々な面で有利だということが分かった。 就職してからだと勉強が大変なので、今から取得できるものは挑戦したい。
・将来就きたい職業と望ましい生き方を考えている	2	3	・キャリアアップのための努力と将来の夢について ・これから職業に就く若者に期待すること		

自己評価について

1:まったく考えていない 2:考えていない 3:どちらともいえない 4:少し考えている 5:真剣に考えている

[活用方法]

講話実施前に事前オリエンテーションを開催し、講師の経歴や講話のねらい・内容について説明し、質問してみたい内容などをメモ欄に記入させる。

講話のねらいに対してこれまでどの程度考えたことがあるか、自己評価(事前)の欄に評価を記入させる。

講話の際は、ワークシートを会場に持参させて、適宜メモ欄に感想を記入させる。また、質疑応答の場面では事前にメモ欄に記載しておいた質問事項について、積極的に質問するよう指導する。

講話の後、HRなどで感想を発表し合う場面を設定し、メモ欄に記載した感想等について積極的に発表させる。その後、自己評価(事後)の欄に評価

を記入させ、自らの変容について考えさせる。

～ が終了したら全員にワークシートを提出させ、その後の生徒の指導資料とするとともに、進路講話の評価の参考とする。

[指導上の留意点]

事後指導においては、進路講話で知り得たことや気付いたことを、それぞれの進路選択に生かすことができるよう指導することが必要である。

ワークシートを生徒に返却し、キャリア教育に関するポートフォリオとして自己管理するよう指示するとともに、ポートフォリオの活用方法についても確認する。

(3) 高等学校3年間のキャリア教育にかかわる評価

これまで、キャリア教育の視点を踏まえた産業現場実習（平成18年度手引に掲載）や進路講話の指導計画・内容等について取り上げてきたが、これらの学習プログラムは生徒の発達段階における発達課題を踏まえ、また、発達における個人差にも留意しながら、適時性や系統性などに配慮した創意工夫ある活動を展開していく必要がある。

その際、常にどのような能力や態度が身に付いたかという観点から、生徒一人一人のキャリア発達の状況を的確にとらえるとともに、活動の様子や成果などから、指導計画や方法などが妥当なものであったかを評価していくことが大切である。また、生徒自身が自らを適切に評価しながら自己理解を深めていく取組が重要であることから、自己評価の方法を工夫したり、様々な活動を自己管理できるポートフォリオを活用するなどして、継続的・総合的に自己の発達を評価できるようにすることが必要である。

ここでは、3年間を見通したキャリア教育の取組について、各学年毎に学習の成果等について自己評価する「キャリア発達自己診断シート」の例を示し、活用方法などについて説明する。

「キャリア発達自己診断シート（例）」 3年間保存
科 番 氏名

中学校における体験学習など		印象に残っていること・考えたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場見学： 自動車(株)北海道工場 (トランスミッションの製作) ・ 職場実習： 自動車整備工場 ・ その他： 町内の職場調べ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人が多く、てきぱきと仕事をこなしていた。はつらつとした雰囲気や活気にあふれた職場だった。 ・ 洗車や簡単な点検、オイル交換などを体験した。笑顔で挨拶すること、点検は複数で確認を行う。 ・ 町内にある工場や職場について、どのような仕事をしているのか調べた。
学年	高校におけるキャリア教育の取組 (特色ある取組)	取組を通して意識が高まったと思うこと
1	・ 工場見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場を見学することで、それぞれの職業に求められる適性が違うことが分かった。 ・ 挨拶、言葉遣い、身なりなどの大切さが分かった。
2	・ 産業現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことの大変さ、挨拶や同僚とのコミュニケーションの大切さが分かった。 ・ 仕事に慣れるに従って、自分でも責任を持って仕事をこなせるようになった。 ・ ものづくりの楽しさを実感した。
3	・ 進路講話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業や仕事内容、働き方について知ることができた。 ・ 働く目的や意義について考えることができた。 ・ 職業の勤労観や職業観について考えた。 ・ 将来就きたい職業と望ましい生き方について考えた。

「キャリア発達自己診断シート（例）」

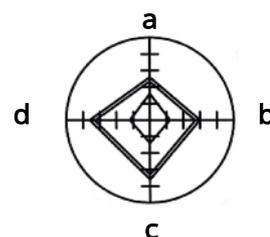
科 番 氏名

発達課題	評価項目	1学年(3月20日)	2学年(3月20日)	3学年(月日)
a 自己理解の深化と自己受容	1. 自分の職業的な能力や適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうと努力している。	① 2-3-4-5	1 ② 3	1-2-3-4-5
	2. 将来の夢や希望をもとに卒業後の進路を考えている。	1 ② 3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	3. 友人など周囲の意見や世間の風潮に流されず自分の意志で進路を選ぶことができる。	① 2-3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	4. 自分の生き方や価値観にもとづいて将来の進路を決めていくことができる。	1 ② 3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	5. 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について考えている。	1 ② 3-4-5 小計(8)	1 ② 3 小計()	1-2-3-4-5 小計()
b 選択基準としての職業観・勤労観の確立	6. 進路先でうまく適応できるように考えて準備している。	① 2-3-4-5	1 ② 3	1-2-3-4-5
	7. 将来何のために働くのか、といった働く意義や目的を考えて進路を選ぼうと考えている。	1 ② 3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	8. 進路に関して自分から積極的にアドバイスを受け、進路を実現するために必要な情報を得て具体的に準備している。	① 2-3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	9. 自分がどのような仕事に適しているか説明することができる。	① 2-3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	10. 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解や認識を深める努力をしている。	① 2-3-4-5 小計(6)	1-2 ③ 小計()	1-2-3-4-5 小計()
c 将来設計の立案と社会的移行の準備	11. 自分の将来の生き方と卒業後の進路を関連づけて考えている。	① 2-3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	12. 進路希望の実現のために必要な条件に合わせてこれまでの進路計画を見直している。	① 2-3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	13. 自分の好きなことを生かす進路を選ぼうと考えている。	1 ② 3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	14. 多様な選択肢の中から、自分の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択しようと考えている。	1 ② 3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	15. 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集めて準備している。	① 2-3-4-5 小計(7)	1-2 ③ 小計()	1-2-3-4-5 小計()
d 進路の現実吟味と試行的参加	16. 将来の夢や希望を持ち、その実現を目指して努力している。	① 2-3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	17. 進路指導室などの資料を利用したり、希望する職業に必要な資格や免許の取得方法を知り取り組んでいる。	1 ② 3-4-5	1-2-3	1-2-3-4-5
	18. 進路先での生活や具体的な条件について知り、困難な問題が起こっても積極的に対処していきける。	① 2-3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	19. 今までの体験や情報をもとに自分の意志と責任で望ましい進路を決めていくことができる。	① 2-3-4-5	1-2 ③	1-2-3-4-5
	20. 将来設計、進路設計の実現を目指して課題を設定し、その解決のために努力している。	① 2-3-4-5 小計(6)	1-2-3 小計()	1-2-3-4-5 小計()

【レーダーチャート】

《評価スケール》

1: ほとんど当てはまらない	1学年(3月20日実施) ———
2: あまり当てはまらない	2学年(3月20日実施) =====
3: やや当てはまる	3学年(月日実施)
4: かなり当てはまる	
5: ひじょうに当てはまる	



[活用方法]

(キャリア発達自己診断シート)

「工場見学」、「産業現場実習」、「進路講話」など、各学年の中核的な活動を振り返り、それらの取組を通して意識が高まったと思うことを記入させる。

(キャリア発達自己診断シート)

各学年の年度末に1年間の学習活動を振り返り、それぞれの評価項目に対する成果や課題などを確認しながら自己評価を5段階で記入させ、それぞれの発達課題ごとの評価の合計点を求め、レーダーチャートを作成させる。

[指導上の留意点]

「キャリア発達自己診断シート」の記入に当たっては、それぞれの活動や取組を実施した際の記憶を思い起こしながら記入するため、生徒間で会話をすることを認め、記入させるなどの方法も考えられる。

中学校における体験学習などについても印象に残っていることを記入させ、成長の過程を振り返らせる。

キャリアに関する教育活動を通して、意識が高まったと思うことが自分のキャリア発達に結びつくことをしっかりと認識させる。

「キャリア発達自己診断シート」の記入に当たっては、前年度の評価をあまり意識せず、現在の自分の率直な気持ちや考えに基づき記入させる。

前年度の評価と比較してどのようなキャリア発達が見られたか確認させ、不十分だと思う点については、今度どのようにしてキャリア形成を図るべきか、考えさせる。

「キャリア発達自己診断シート」をキャリア教育に関するポートフォリオとして自己管理するよう生徒に指示するとともに、ポートフォリオの活用方法について確認する。

3 キャリア教育の視点を踏まえた工業教育のさらなる充実に向けて

工業教育においては、これまでも創造性豊かな将来のスペシャリストの育成をめざし、実践的・体験的な学習や資格取得の推進など、教育内容や方法の充実を図ってきた。

近年、若者の科学技術離れや、勤労観、職業観の未熟さなどが課題となっていることから、工業教育全体を通して、ものづくりへの興味・関心を高め、実践的な技術・技能を身に付けさせることはもとより、職業人として必要な勤労観、職業観などを育成するためのキャリア教育の推進に一層努める必要がある。そのためには、キャリア教育を教育課程に明確に位置付けるとともに、家庭や地域、産業界等との連携を密にしながら計画的、組織的に進めることが大切である。

本手引においては、昨年度から2年間にわたりキャリア教育の視点を踏まえた学習指導の改善・充実をテーマに、3年間を見通した指導計画及び指導内容や産業現場実習の評価計画・方法等、さらには進路講話の実施計画・内容や高等学校3年間のキャリア教育にかかわる評価について示してきた。各学校においては、これらの内容を参考としながら、キャリア教育の視点を踏まえた工業教育の在り方について検証するとともに、教科指導の改善・充実に一層努めることが必要である。